

熊本県における高大連携の取組～熊本サイエンスコンソーシアムの設立～

High School-University Collaboration Initiatives in Kumamoto Prefecture

Establishment of Kumamoto Science Consortium

熊本県教育庁高校教育課¹, 熊本県立第二高等学校² °今村 清寿¹, °田中 知史²

Kumamoto Prefectural Board of Education Secretariat Upper Secondary Education Division¹,

Kumamoto Prefectural Daini High School², °Kiyotoshi Imamura¹, °Satoshi Tanaka²

E-mail: imamura-k-d@pref.kumamoto.lg.jp

熊本県は、研究支援におけるマッチングを円滑にするために、熊本サイエンスコンソーシアムを設立し、大学と高校を繋ぎ、組織対組織によるマッチングの負担を少なくする研究支援体制を構築した。

1 熊本県における高大連携活動

熊本県教育委員会は、各学校の特色や強みを生かした取り組みを重点的に推進する熊本スーパーハイスクール（以後、KSH と呼ぶ。）構想に取り組み、学びの特色化を図るとともに、探究活動の充実等を推進している。また、高校間連携や多様なパートナーとの連携による取り組みを実施していくために、学びの深化を図る高大連携を進めている。

特に、熊本県には 2023 年 4 月現在、県立高校の第二、熊本北、宇土、天草、鹿本の 5 校の SSH 校があり、熊本県内に限らず全国の大学、研究施設等から指導助言や研究支援を受けている。

2 熊本サイエンスコンソーシアム (KSC) の概要

熊本県における理数教育の発展と科学技術人材育成のため、SSH 指定校を中心とし、理数系の学科・コースを持つ 3 校を加えた 8 校のコンソーシアムを組織し、熊本サイエンスコンソーシアム（以後、KSC と呼ぶ。）と名付けた。

KSC は、熊本県教育委員会の指導・助言のもと次の取組を行っている。

- (1) 探究活動と授業改善の推進に関すること
- (2) 高大接続研究に関すること
- (3) 企業等との連携に関すること

特に、(2) に関しては、KSC 校の生徒等が取り組む課題研究・探究活動に対し、年数回の研究支援（研究室訪問、オンライン指導等）や集中講義等を大学に依頼する。また、主に高校での研究実績を評価する入試制度の導入、入学前教育や先取り履修による単位認定等の協議を行い、育成する科学技術人材について大学、高校で共通理解を形成し、育成・評価方法の開発を行う等これからの高大連携・接続を見越した取り組みを計画している。

3 大学の課題研究支援

上記 2 で述べた大学による高校生への研究支援について、KSC が窓口となり、県内の大学に課題研究支援を依頼するために、各大学との連携協定の締結を進めている。KSC は 2021 年度に崇城大学、2022 年度に熊本保健科学大学と連携協定を結んだ。さらに熊本大学についても、2023 年 9 月に協定を締結する準備を進めている（2023 年 6 月現在）。

高大連携はこれまで大学の個々の先生と個別に協力関係を築いてきた場合が多く、特定の大学教員に依頼が集中したり、高校側が連携先を探すのに苦労したりする場合があった。KSC が実施している大学との連携は、大学側が協力できる研究テーマを KSC に提示し、そのリストにより KSC が高校側とのマッチングを行い、支援内容を大学側と調整する。この様に組織対組織で研究支援を行うことで、研究者探しに労力が必要であった高校と基本的に個人で対応することが多かった大学教員のマッチングについての利便性や透明性が担保でき、高大連携・接続を進める上での基盤強化になると考えられる。

4 KSC の運営

研究支援の依頼は、各高校から KSC 事務局へ研究支援依頼書が渡され、KSC 事務局が当該大学へ実際の支援依頼を行う。大学から KSC 事務局へマッチングする教員・研究室を紹介され、それを依頼した高校へ連絡し、高校から大学教員・研究室へ直接コンタクトを取り、実際に研究支援が開始される。

大学は前もって研究支援できる教員や研究テーマを KSC 事務局に示し、高校の依頼に対して KSC 事務局が適切なマッチングを提案して、高校と大学を繋ぐ。

今後は、支援件数を増やすことと、それに伴う事務局の負担軽減のための措置が課題である。